

国際研究教育拠点の検討状況

令和4年2月25日

国際研究教育拠点の具体化に向けて（1）

- 廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境等において、研究テーマを提案しており、これらの具体化に取り組む。
- 研究者だけでなく、役員等も派遣し、新拠点の研究・運営に積極的に参画する。

廃炉、ロボット・ドローン

- 福島第一原発、高温高所の産業インフラ、災害現場でのロボット・ドローンの活用が期待。耐放射線性・耐久性、ヒューマンインターフェース、電波環境が悪い中での遠隔操作技術等に関する研究を進める。
- 福島の水素拠点と連携した、水素ドローンの研究開発や、その利用促進に繋がる水素充填インフラ等の標準化も進める。

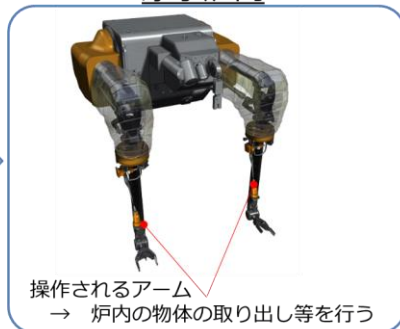
<ヒューマン・インターフェイス技術例>

遠隔地



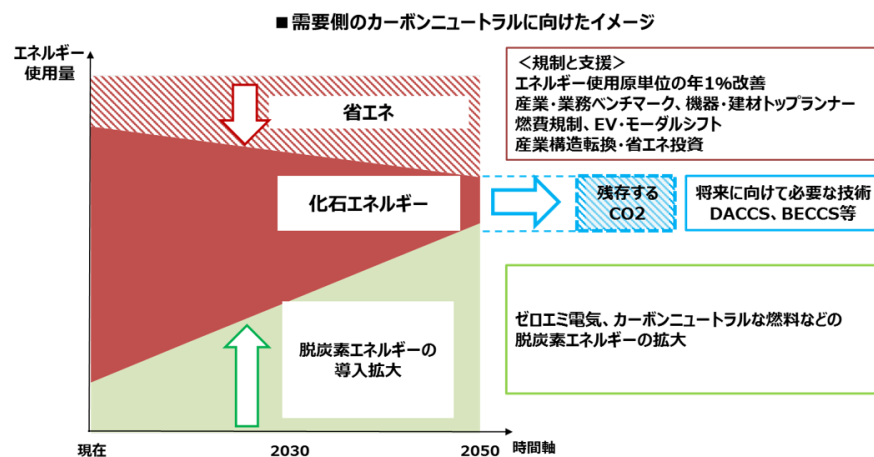
連動

原子炉内



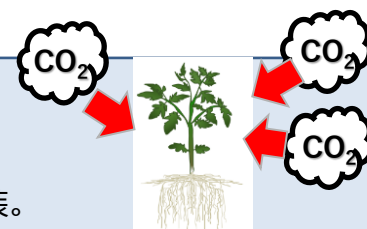
エネルギー・環境

- 2050カーボンニュートラルに向けて、脱炭素化が困難な領域のCO₂排出源の「ネガティブエミッション(炭素除去・植物固定等)」の研究を進める。



例 BECCS分野

ゲノム編集技術を活用し、早生かつCO₂を大量に吸収する植物の生産（次世代植物工場）技術を開発、実装。



国際研究教育拠点の具体化に向けて（2）

- 地元で活躍する人材の育成に繋がることが重要。このため、高等専門学校等との連携が重要。また、新拠点で育成された人材の受け皿となる企業の呼び込みも進める。
- 福島浜通りの未利用地を活用した、この地にしかない実証・実装フィールドの整備も必要。企業の呼び込みの拠点とし、また、地元企業の技術力向上に貢献する。

人材の育成、企業の呼び込み

- 地元で活躍する人材の育成に繋げるため、高等専門学校等との連携。また、育成された人材の受け皿となる企業の呼び込み。
- この他、IAEA等と連携した国際研究者、廃炉に求められる放射性廃棄物の分析・評価を担う人材、復興の教訓を伝承する人材等の育成も進める。



地元工業高校での
進出企業による電池技術の講義



IAEAの原子力人材育成

実証・実装フィールドの整備

- ネガティブエミッション技術の実証フィールド、空飛ぶクルマの開発等を加速するため福島ロボットテストフィールドの機能強化、日本初の超大型X線CT装置の設置など。
- 福島ロボットテストフィールドで開催されたワールドロボットサミット福島大会では、地元企業グループが災害対応部門で準優勝。



テトラ・アビエーション
空飛ぶクルマの研究開発



準優勝した南相馬ロボット産業
協議会の災害対応ロボット
「MISORA」